

チャレンジ農業！次のステージへ！

営農情報ならは

檜葉町産業振興課（令和2年11月号）

- ①ならSUNフェス2020開催！～農産物品評会～
- ②なぜ今「土づくり」が重要なのか！？
- ③ストップ遊休農地！大切な農地を有効利用しましょう。



ならSUNフェス2020開催！～農産物品評会～

11月7日、秋晴れの中、檜葉町みんなの交流館ならはCANvasにおいて「ならSUNフェス2020」が開催されました。当日は、恒例の餅まきや焼き芋・お酒が振る舞われる等、町内外から約1200名の来場があり、笑顔があふれる賑やかな一日となりました。



農産物品評会については、檜葉町の意欲的な農業者77名が丹精を込めて栽培した甘藷やユズ、ユーカリ等、前年を上回る約200品目が出品され、その中から福島県知事賞や檜葉町長賞等10名の方々が受賞されました。出品された農産物については、即売会が開催され全て完売となりました。

（※新型コロナウイルス対策として入場表の記入や施設内換気のほか、会場内各所に消毒液等を配備する等、万全のコロナ対策を実施しました！）



特大の甘藷も出品！

| | |
|--------------------------|----------------|
| 福島県知事賞（1名） | 猪狩富夫さん（甘藷） |
| 檜葉町長賞（3名） | 酒井広一さん（ネギ） |
| 〃 | 松本広行さん（ユズ） |
| 〃 | 小栗厚さん（ユーカリ） |
| 檜葉町議会議長賞（2名） | 猪狩義久さん（フロッコリー） |
| 〃 | 塩井淑樹さん（金魚草） |
| 農業委員長賞（2名） | 鈴木達子さん（白菜） |
| 〃 | 大山伸一さん（小カブ） |
| 福島さくら農業協同組合ふたば地区本部長賞（2名） | 古市君江さん（カボチャ） |
| 〃 | 鈴木裕子さん（花き） |
| 〃 | |

ストップ遊休農地！檜葉の農地を有効利用しましょう！

檜葉町は、意欲的な農業者の努力により営農再開面積が段階的に拡大しており、令和2年度の作付面積は、①水稲約240ha、②甘藷約42ha、③タマネギが5ha作付けされました。その一方で、遊休農地も増えつつあり、このままでは、農地の原野（林野）化により、産業廃棄物等の不法投棄や火災の発生が懸念されるほか、水利施設の管理にも支障が出てくる可能性があります。さらに、病害虫の温床となることや鳥獣被害が拡大する懸念もあり、地権者と行政が一体となって早急に対策を講じる必要があります。

令和3年産の作物生産に向けては、ほ場内の栽培管理はもちろんのこと、ほ場周辺の管理も含めた良好な状態を保持できるよう草刈り等を徹底し、高品質な作物生産を目指し、営農再開の加速化を図りつつ次のステージ（面積拡大から品質向上へ！）の実現に向けて実践しましょう。また、農地の利活用や貸与等をお考えの方は、産業振興課にご相談願います。

農地の権利を有する人には「農地を農地として利用する責務」があります。農地法では「農地の所有権・賃借権等を有する者は、その適正かつ効率的な利用を確保しなければならない」旨の債務規定が設けられています。



檜葉町大坂地区の水田と畦畔

発行日 令和2年11月
発行 福島県檜葉町
編集 檜葉町産業振興課

〒979-0696

福島県双葉郡檜葉町大字北田字鐘突堂5-6

TEL：0240-23-6104 FAX：0240-25-1234



チャレンジ農業！
次のステージへ！

TOPIX (耳寄り情報♪)

楡葉町(産業振興課)は、循環型の農業を目指しており「耕畜連携」の実現に向けて、福島県相双農林事務所双葉農業普及所と連携し取り組んでいます。

楡葉町は、営農再開が段階的に進んでおり、次のステージ(面積拡大から品質向上へ!)に向けて取り組むべきことは「土づくり」と位置づけ、関係機関と連携し各種事業を展開する方針です。

なぜ今「土づくり」が重要なのか!?



<技術のお問い合わせ先>
福島県相双農林事務所
双葉農業普及所
〒979-1111
双葉郡富岡町小浜481番地
TEL(0240)23-6473
FAX(0240)22-2560

なぜ、震災直後の稲は、よく育ったのか?

- ①**乾土効果**:震災後、休耕したことで土壌中の有機物が微生物による分解を受け、アンモニア態窒素が増加し生育が旺盛になった。
- ②**雑草のすき込み**:分解されて養分になる有機物が増えた。

稲わらの特徴と効果

分解されると堆肥と同じような効果を発揮する。ただし、すき込んだ後に腐熟が進まないと、翌年ガスがわき、生育障害が起きるので、収穫後すぐに耕起する。耕起の前に硫酸や石灰窒素などを添加することで分解が促進される。微生物のえさになる窒素分を供給してやることで、分解が活発になる。適切な使用量であれば窒素過剰の心配はない。

有機物と地力増進

田んぼの土壌中の有機物は、湛水している期間が長いので分解されにくい。ゆっくりと分解されるので、有機物が溜まっていく。稲が使う窒素のうち、60~70%が土壌由来であると言われており、生育期間中の気温が上がるにつれ、徐々に分解され窒素が出てくる。

これからの米づくりの戦略

多収or良食味を目指す米づくり:良食味を目指す場合、窒素を絞るので肥切れになるおそれがある。多収を目指す場合は、登熟が止まるまで栄養をしっかりと送る必要がある。いずれの場合も地力が重要である。
異常気象に負けない米づくり:最近夏が高温で、呼吸と光合成が増えて栄養失調になる可能性がある。収穫まで持ちこたえる地力が必要である。競争を勝ち抜く米づくりは「土づくり」から!

牛ふん堆肥の特徴と効果

- 化学肥料代替効果**:牛ふん堆肥を1t/10a入れると、約3kgの窒素(成分換算)が入ることになる。リンやカリの供給源にもなる。
- 物理性の改善**:分解されずに蓄えられる分は、さらに分解されるとともに、土の粒子と結びつくことで土を軟らかくする。
- 保肥力の向上**:肥料を捕まえる効果を発揮する。
⇒土壌改良、肥料、地力向上の効果を持つ資材。

楡葉町のこれからの土づくり

地力を上げていい土を目指す!

有機質資材の投入が必要である。稲わらのすき込みで現状維持はできるが改善は見込めない。堆肥が良いのはもちろんだが、散布が難しいのならば、
▶全面、全筆一律散布から、局所散布にする。
▶散布するほ場のローテーションを組んで、数年でひと回りさせる等、できる範囲で、できるだけのやり方で実践する。

土づくりは続けることが重要です!

